

これからのお寺を考える情報誌

創刊号

2011

Vol.1

みくら

特集：「永代供養墓」を知る

お寺を「いつでも帰って来られる場所」に 浄土真宗 本願寺派 廣川山 専正寺

実の親に手を合わせる気持ちで日々、供養する 日蓮宗 本覚山 実相寺

「萌え看板」で、若者の集まるお寺に大変貌を遂げる 日蓮宗 松栄山 了法寺

悩み相談で、心の危機に陥った人を救う 臨済宗 建長寺派 福智山 能満寺



“よってら(寺)、みってら(寺)、みんなのお寺”

通称『みんてら』創刊にあたって

「寄ってらっしゃい、見てらっしゃい、

かっこつけないお寺づくり、みんなに愛されるお寺づくり、
がんばる元気なお寺づくり。

そんな愛されるお寺づくりをお手伝い。

それが『みんてら』です。

昨近、「寺離れ」や「檀家離れ」ということがマスメディアで盛んに言われています。
マスコミが盛り上げている部分もあるでしょう。それぞれのお寺の歴史や地域の事情もありますし、耳にするからといって一概にすべてのお寺に言えることではないでしょう。

しかし、実際にいろいろなお寺を回ってみると、「昔は地域の皆で協力しているんなことをやったけど、最近はお付き合いがないなあ」とか、「最近、檀家さんに会うのって、葬儀や法事のときだけになっているような気がするなあ」といったお話を伺うことは確かに多くなったように感じます。

時代とともに人々のお寺に対する意識は変わって来ています。檀信徒さんたちの中で、「自分たちのお寺は自分たちで守る」という意識は薄れつつあるのかも知れません。一般の人々にしてみれば、お寺の敷居が少し高すぎて、なかなか踏み込みづらいのかも知れません。

ただ、ひとつだけはっきりと言えることは、10年後、20年後、さらに30年後と、お寺の将来を考えたら、「お寺に行くのは特別なときだけ」ではなくて、「誰でもいつでも、気軽にお寺に来られる」ような関係を築いていくことが大切なのでは。

檀信徒さん、そして地域の人々とお寺との間は、今は点と点の関係かもしれません。でも、ちょっとした工夫やちょっとした取り組みで、その関係を太い線にしているお寺もあります。

そんなお寺づくりを目指す皆様を、『みんてら』がお手伝いいたします。

平成23年2月

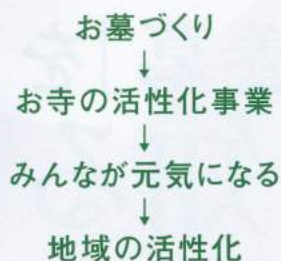
『みんてら』編集長

ここはみんなのお寺だよ。」

みんてら[®]

川本商店が考える『みんてら』とは

お墓づくりをサポートして100有余年



弊社は、創業以来100年余りにわたって、お墓づくりをサポートして参りました。おかげさまで全国約100箇寺でさまざまなお墓づくり、お墓の演出のお手伝いをさせていただきました。

そこで得た経験から

→ これからのお墓づくり&お寺環境整備事業

例えば、今話題の永代供養墓もこれからの世代に向け必要な施設の1つです。しかし、永代供養墓を建てたからといって、本来のお寺と人々との密接なつながりがかつてのように戻って来るものではありません。

まずは、お寺に人が足を運んでこそ永代供養墓が生きてくるのではないのでしょうか。

「このお寺に行ってみよう!」「そうだ、お寺に行こう!!」「とりあえずお寺に行ってみようか」そんな身近なお寺づくり、それが弊社の考える『みんてら』です。

※みんてらは川本商店の登録商標です。

これからのお寺を考える情報誌

みんてら 創刊号

CONTENTS

01 | 創刊にあたって ～編集長ごあいさつ～

03 | **特集**

09 | 「永代供養墓」を
知る

- I 増える永代供養墓
- II 永代供養墓で
お寺はどのように変わるのか?
- III 永代供養墓で
これからのお寺づくり!

11 | 10年後のお墓をプロデュース①
お寺を「いつでも帰って来られる場所」に

浄土真宗 本願寺派 廣川山 専正寺

14 | 10年後のお墓をプロデュース②
実の親に手を合わせる気持ちで日々、供養する

日蓮宗 本覚山 実相寺

19 | 人の集まるお寺づくり①
「萌え看板」で、若者の集まるお寺に大変貌を遂げる

日蓮宗 松栄山 了法寺

23 | 人の集まるお寺づくり②
悩み相談で、心の危機に陥った人を救う

臨済宗 建長寺派 福智山 能満寺

特集 「永代供養墓」を知る

I 増える 永代供養墓

65歳以上の人口が総人口の21%以上という超高齢化社会に突入した日本では今、自分の死に関心を持つ人が増えています。特にこのところ孤独死など、人間の最期に関わる問題がマスコミによってクローズアップされてきました。これまでなるべく触れないようにしてきた葬儀やお墓について、真剣に考える時代になったのです。

そんな中、「継承者がいなくなった場合でも、お墓の管理と供養が保障される」という永代供養墓が、話題になっています。

永代供養というサービスを特徴としたお墓は、平成の初期のころから全国で建立されるようになりました。現在、全国に、800~1,000あると言われる永代供養墓ですが、その実態を示す統計的な資料はありません。しかし、永代供養墓を運営する全国

の寺院を対象に行ったアンケート調査によると、平成11年を境に、永代供養墓の開設数は急増しています。その後一時落ち着きましたが、平成17年からは再び増加傾向にあります(P04図1)。

また、ここ数年で永代供養墓が一般消費者のあいだでも広く知られるようにもなりました。

お墓について、一般消費者から相談を受け付けているWebサイトでは、このところ永代供養墓に関する相談が急増していると言います。その相談の内容についても、これまではどちらかというと、諸事情からやむを得ず永代供養墓という選択肢を選んでいたものが、最近では積極的に永代供養墓を選ぼうとする人が確実に増えてきていると言うのです。

その背景には急速な家族形態の変化や経済

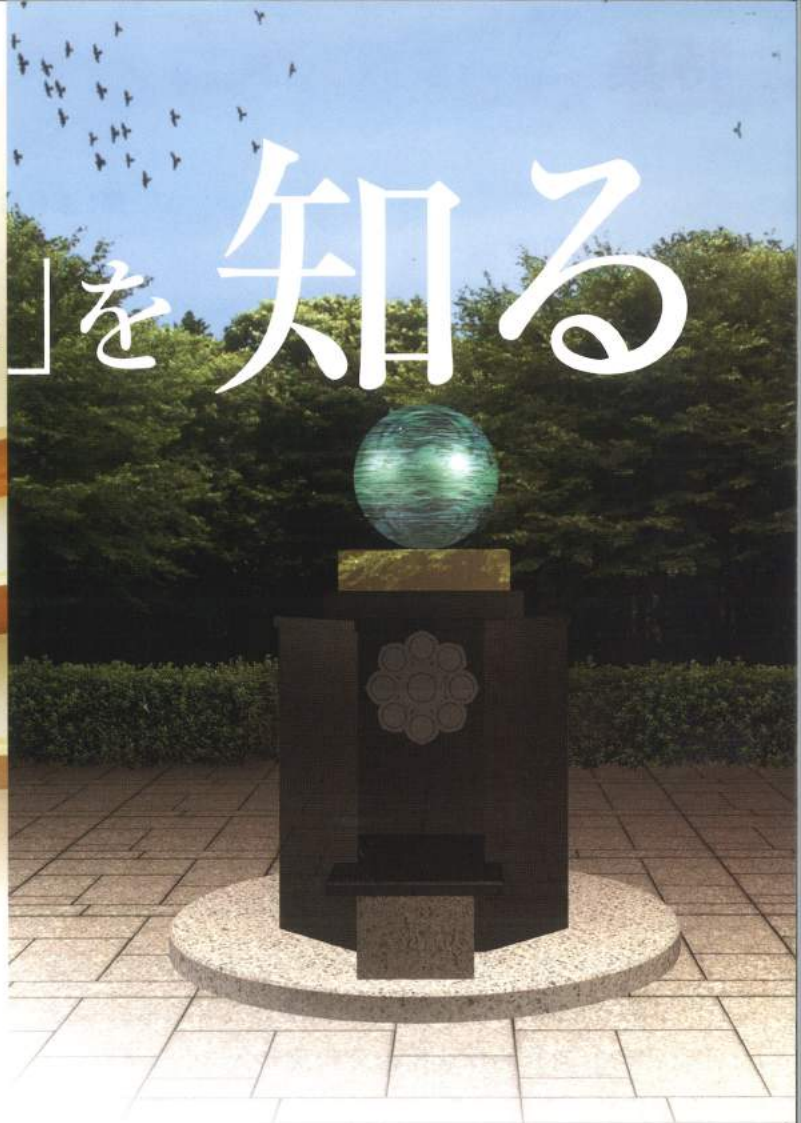
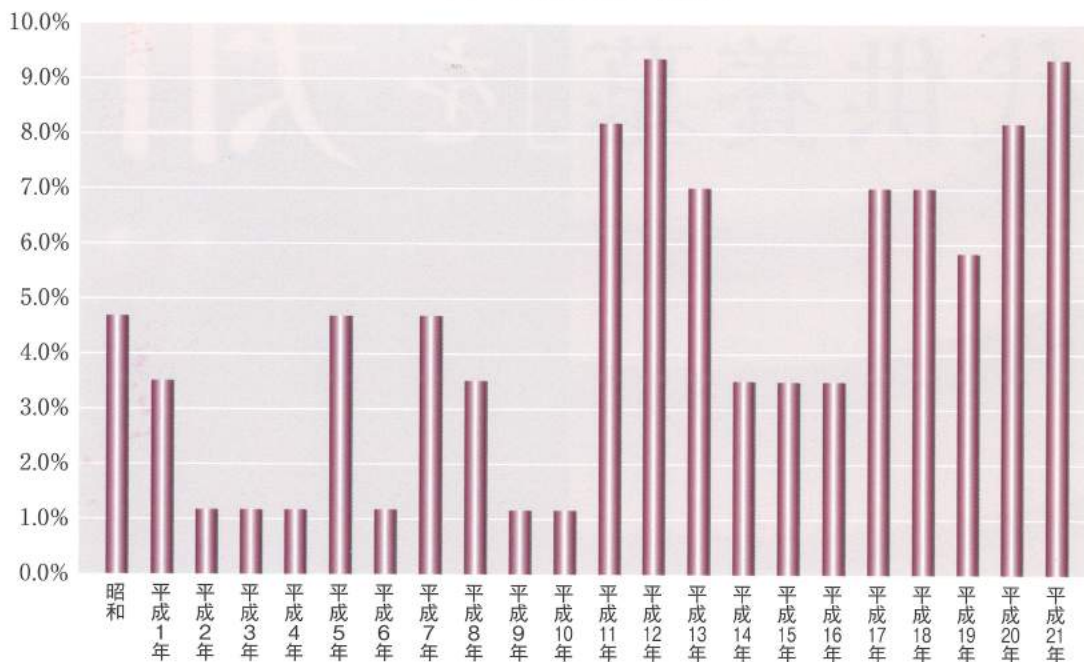


図1 永代供養墓の開設年



「永代供養墓を運営する寺院に対するアンケート調査」(鎌倉新書)より (調査時期:平成21年11月、N=93)

状況の変化があります。少子化、核家族化、非婚率や離婚率の増加といった複雑化する家庭環境など、現代の日本社会の状況が大きく影響しています。

永代供養墓を選ぶ主な理由としては、「お墓はあるけれど子供がいない」「子供はいるけれど娘だけ」というように継承者の不在や、「子供に負担

を掛けたくない」というものもあります。最近では、同じお寺の永代供養墓に親子で別々に申し込むというように、肉親であっても「親は親、子は子」といった意識も広がりつつあるようです。

また、失業率や非正規雇用割合も増加の傾向にあります(図2)。経済的な事情から、「お墓は欲しくても買えない」という現実も無視できません。

お墓相談サイトに寄せられた消費者の声(抜粋)

「昨日亡くなったばかり。自宅にお骨を置いておくのは縁起が良くないと聞いているので49日までは納骨したい。ただ合葬は望まない。またお寺の檀家になるのも抵抗感がある。納骨堂を探している。メリットとデメリット、形態などを詳しく聞かせて欲しい。」

「両親が高齢になったため近くにお墓を建てようかと考えていますが、子供は私と妹と二人で、二人とも結婚して苗字が変わっています。墓を建てても入るのは両親までです。墓を建てた方がよいのでしょうか。永代供養墓等を考えた方がよいのでしょうか。」

「5年前に女の子をひとり連れて再婚しました。相手は初婚で子供はなし、そちらの両親は健在で、同居しています。嫁ぎ先には、主人も「何人入っているか分からない」という古いお墓がありますが、私の娘が嫁いだ後のことが心配です。そのお墓を継承させるのは負担が大きいですし、私自身、そのお墓に入りたくはありません。ですから、今の両親が亡くなったら、処分して(永代供養で合祀墓に?)私達夫婦だけが入る“永代供養墓”を建てたいと思っていますが、それは可能でしょうか？」

鎌倉新書 いいお墓.com より



Ⅱ 永代供養墓で お寺は どのように 変わるのか？

お寺にとっての 永代供養墓の有益性とは？

それでは、永代供養墓を建立すると、寺院にはどのような変化が起こるのでしょうか。永代供養墓を建立する目的を整理しながら考えてみましょう。

これまでに永代供養墓を開設したお寺に、その建立の理由を尋ねてみると、まず「檀家からの要請」といったことがあるようです。

子供がいなかったり、いても娘だけで、すでに嫁いで遠く離れて暮らしていたりすると、長年お寺と

お付き合いのある檀家であればあるほど「代々受け継いできたお墓が自分の代で絶えてしまうのではないか」という不安を感じてしまいます。このような檀家が、生前のうちに菩提寺に何らかの対応を求めるといったケースです。

これについては、永代供養墓があることで、檀家も安心して最期まで「お寺に任せよう」という気持ちになるでしょう。さらに、事前に継承者のいなくなる墓地の遺骨を永代供養墓に移して整理することで、その区画を新たに分譲し直すことも可能になります。

また、これまでお寺と縁の無かった人に永代供養墓をきっかけにお寺と縁を結んでもらうという「布教活動の手段」という側面もあります。特に都市部では菩提寺を持たない人も大勢います。これらの人々がお墓をきっかけに新たにお寺と縁を結ぶ際に、永代供養墓があるということで選択肢も広がり、お寺へのアプローチもしやすくなります。

図2 失業率と非正規雇用割合



〔平成22年版 子ども・子育て白書〕(内閣府)より

これらの人々は永代供養墓に申し込むことによって、新しくそのお寺の檀家になるということもありますし、そうでなくとも、「故人が眠っているお寺だから」と法事や葬儀を依頼することもあります。実際、永代供養墓を建立したことで、4割以上の寺院が「法事の増加」を、約2割が「葬儀件数の増加」を挙げています(図3)。

永代供養墓の運営には 問題点、課題点も

一方、実際の管理、運営に当たっては、問題点や課題点もあるようです。

永代供養墓を建立した寺院が感じている問題点としては、大きく分けて、「PR方法や販売」に関するもの、「供養に対する利用者の意識」に関するもの、「ニーズの多様化」に関するものの3つがあります。

「PR方法や販売」に関するものについて言えば、「需要はある」と言われる永代供養墓ですが、建立したからといって必ずしも申し込みが殺到するわけではありません。年間100件以上の申し込みがあるところもあれば、反対に何年経っても申し込

みがないというところもあるという具合に、人気の有る無しには差が生まれています。

もちろん、それぞれの寺院で永代供養墓を建立した目的や、そのコンセプトは大きく異なるものです。また、地域性もあり、人々の考え方もさまざまです。従って、「申し込みがあれば成功」というような単純なことではありませんが、「建てさえすれば申し込みがある」というわけではないようです。

人が集まっている永代供養墓を運営しているお寺の中には、「より多くの困っている人々を救済したい」と、永代使用料を低く抑えているお寺があります。このお寺では檀家以外の人にも情報を発信するため、寺院のホームページのほかに、永代供養墓紹介サイトへも登録するなどして周知活動を行っています。また、地域とも連携を取り、近隣の自治体からも永代供養墓に関する相談を受け付けています。

また、室内に豪華な参拝スペースを用意するなど高級志向の永代供養墓もあれば、会社帰り、買い物帰りに気軽に立ち寄ってお参りできるように、便利さが特徴の永代供養墓もあります。このように、人の集まる永代供養墓をつくるには、永代供養墓に対する考え方をしっかりと持つことが、大

図3 建立後にどのような変化が見られたか(複数回答)



【永代供養墓を運営する寺院に対するアンケート調査】(鎌倉新書)より (調査時期:平成21年11月、N=93)



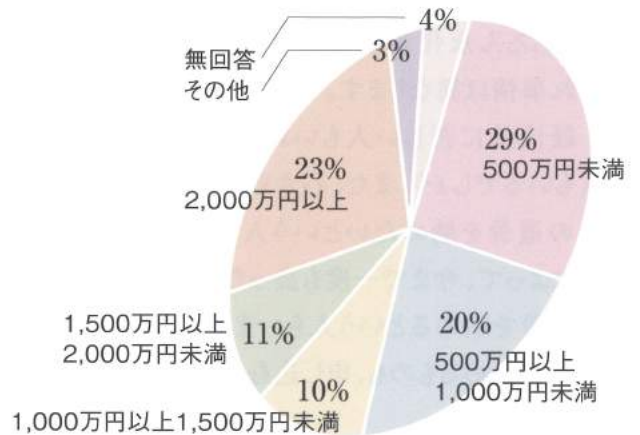
切なようです。

また、永代供養墓の数そのものが増加することで、競争が始まる可能性もあります。

例えば、永代供養墓の使用料について見てみると、平成12年に行われた調査では1体ごとの永代使用料は59万4千560円となっています。ところが、平成21年に行われた同様の調査では、平均が31万3千618円と、約10年間で永代供養墓の平均単価は、およそ半分まで下がっています(図4、5)。

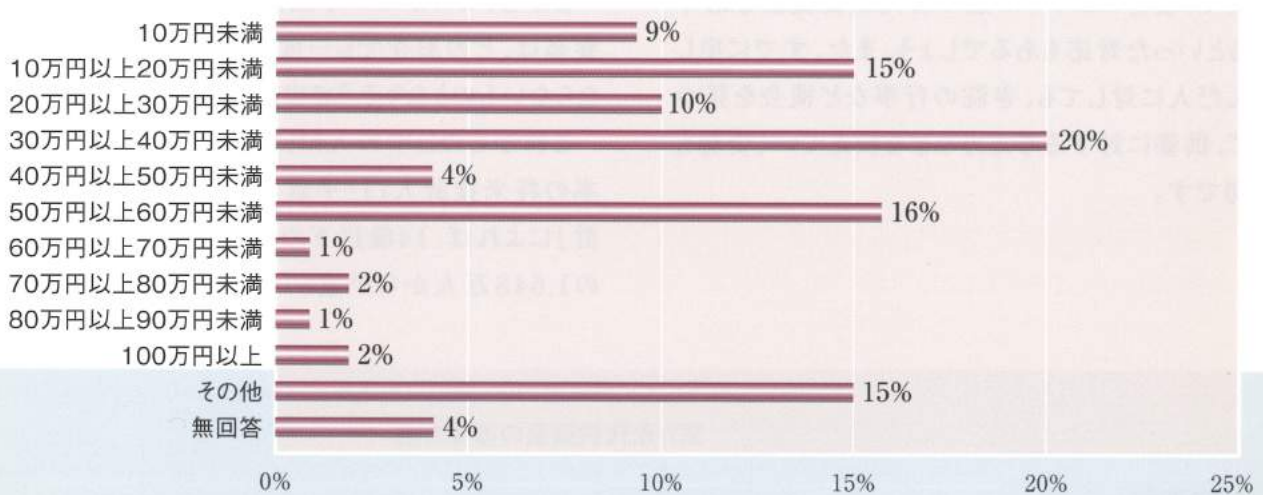
永代供養墓は預かった遺骨を永代にわたって供養、管理し続けるものです。従って開設する際には、建立に掛かる費用だけでなく、将来の運営にかかる費用も考えて計画を立てることが大切になりそうです(図6)。

図6 永代供養墓の建立費用



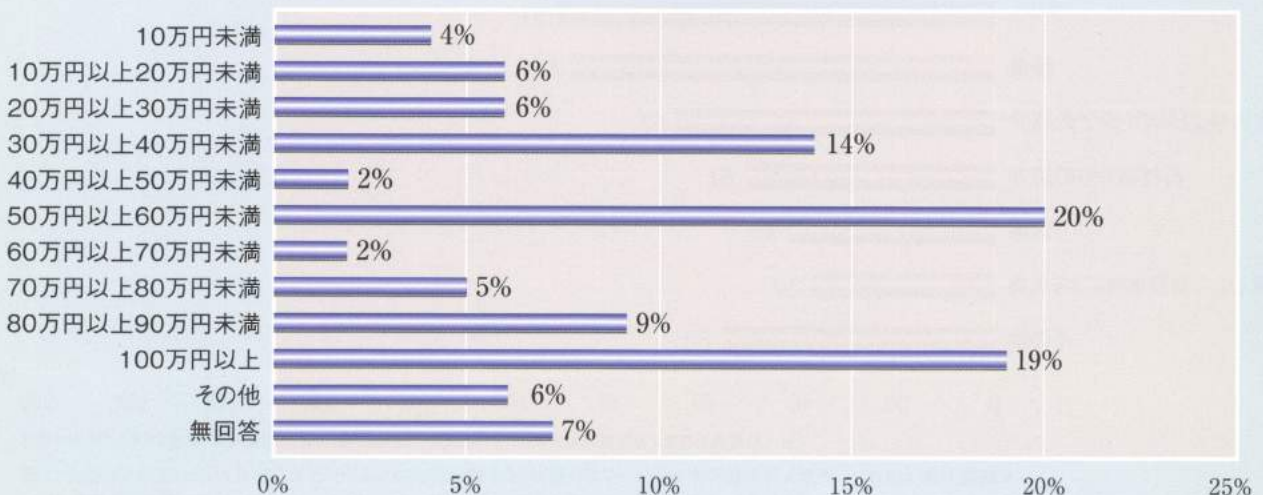
「永代供養墓を運営する寺院に対するアンケート調査」(鎌倉新書)より
(調査時期:平成21年11月、N=93)

図4 1霊ごとの永代使用料(平成21年調査)



「永代供養墓を運営する寺院に対するアンケート調査」(鎌倉新書)より (調査時期:平成21年11月、N=93)

図5 1霊ごとの永代使用料(平成12年調査)



「永代供養墓を運営する寺院に対するアンケート調査」(鎌倉新書)より (調査時期:平成12年5月、N=83)

利用者との対話も大切に

さらに、永代供養墓を運営していると、「申し込む人の中には供養に対する意識が低いのではないか」と感じられることもあるようです。

もちろん永代供養墓を申し込む人によってそれぞれ事情は異なります。

経済的に苦しい人もいれば生活に余裕のある人もいるでしょう。また、心から大切に思っている故人の遺骨を納めたいという人もあれば、諸々の事情によって、今まで一度も会ったこともない、遠い親戚の骨を納めるといった人もいます。従って、永代供養墓に求めるものも、申し込む人によって千差万別となります。

そのため、申し込みをする人とある程度時間をかけた話し合いも必要になります。詳しく話を聞いた上で、場合によっては他の永代供養施設を紹介するといった対応もあるでしょう。また、すでに申し込んだ人に対しても、寺院の行事など機会を見つけて、供養に対する考え方などを伝えていく姿勢も大切です。

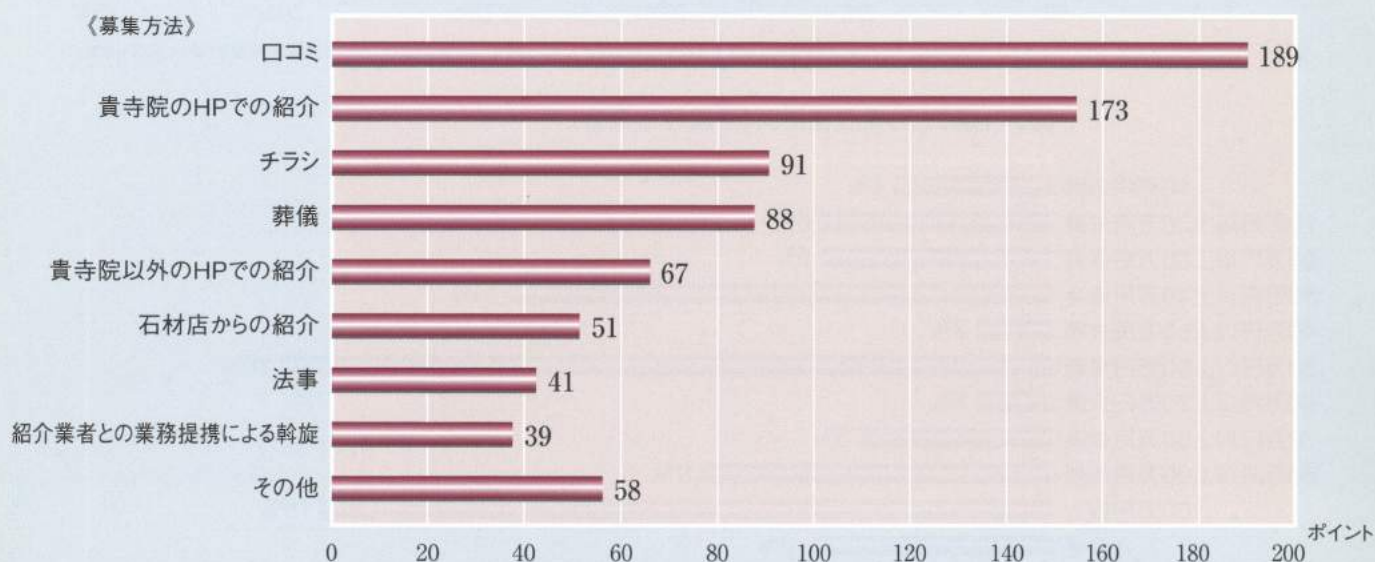
Ⅲ 永代供養墓で これからの お寺づくり！

このように、永代供養墓を運営するには、それぞれのお寺自身が解決していかなければならない課題もあります。

しかし、これからの寺院運営を考えると、永代供養墓は、どのお寺でも一度は真剣に考えなければならないものとなりそうです。

これからの日本の人口について見てみると、「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)中位推計」によれば、14歳以下の年少人口は、平成22年の1,648万人から平成67年には752万人となり、

図7 永代供養墓の募集方法



「永代供養墓を運営する寺院に対するアンケート調査」(鎌倉新書)より (調査時期:平成21年11月、N=93)

*調査方法:「口コミ」「チラシ」「寺院のホームページでの紹介」「寺院以外のホームページでの紹介」「石材店からの紹介」「紹介業者との業務提携による斡旋」「葬儀」「法事」「その他」の9つの項目から申し込みにつながっていると思われる件数順に、順位を記入してもらい、集計は最下位を1ポイントとし、順位が上がるごとに1ポイントずつ加算、総ポイント数を算出した。



総人口に占める割合は、13.0%から8.4%へと減少すると推計されています。

また、25～39歳の未婚率は男女ともに上昇しており、生涯未婚率を30年前と比較すると、昭和50年には男性は2.12%、女性は4.32%だったものが、平成17年には男性15.96%、女性7.25%へと上昇しています(平成17年 総務省「国勢調査」)。

「家」ということについても、平均世帯人員は平成17年では2.56人だったものが平成42年には2.27人まで縮小。さらに「単独世帯」「ひとり親と子から成る世帯」など小人数の世帯の増加が予測されています(「日本の世帯数の将来推計(全国推計)(平成20年3月推計)」より)。

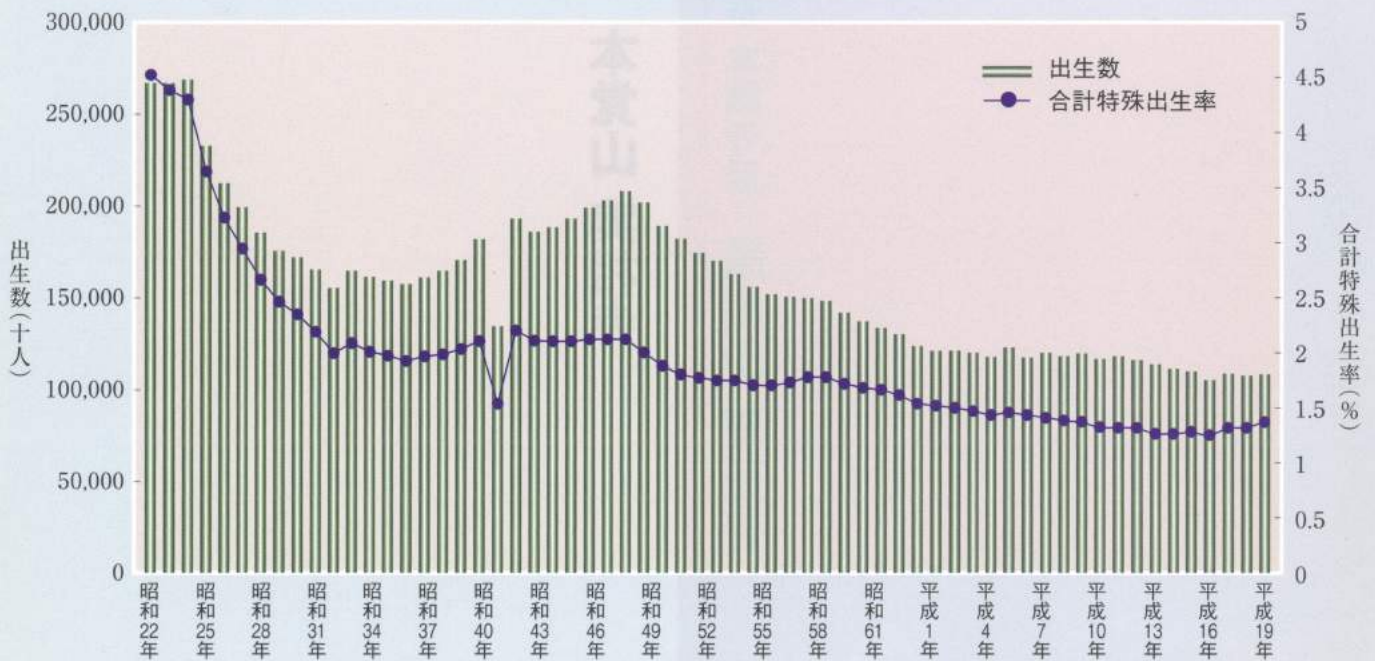
これらのデータを見ると、今後、日本の社会では少子化、小家族化がますます進行することが予測されます。つまり、現在、永代供養墓のニーズに影響を与えていると考えられる社会的な状況は、今後、ますます拍車がかかってくると言えそうです。

これまでお寺と親密な関係を築いてきた檀家といえども、例外ではありません。このままいけば、いずれ継承者が不在となる家が増えてくる可能性があります。このような状況の中、檀家の数が減少すれば、従来のように檀家からのお布施や寄付によ

る寺院運営は、いずれ見直さなければならない事態も起こり得ます。

近い将来、永代供養墓は消費者のニーズに応えるだけでなく、新しい寺院運営の大きな柱となるかもしれません。

図8 出生数と合計特殊出生率



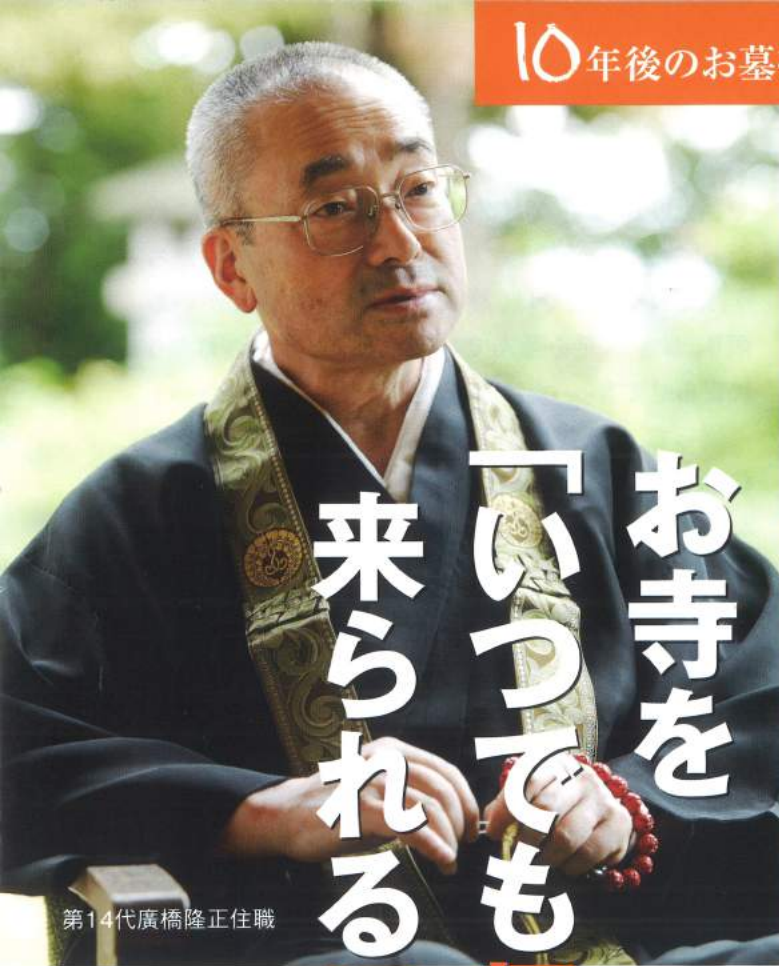
【人口動態統計】(厚生労働省)より



10年後のお墓を プロデュース

① 浄土真宗 本願寺派 廣川山 専正寺

② 日蓮宗 本覚山 実相寺



「お寺を いつでも 来られる 場所」

第14代廣橋隆正住職

浄土真宗本願寺派
廣川山專正寺

帰って 場所

「どこかに心の拠点となるような、戻って来られる場所を用意したかった。それもお寺の境内でできないだろうかという思いがあった」

今年4月、永代供養廟「憶昔廟」を建立した浄土真宗本願寺派廣川山專正寺の第14代廣橋隆正住職は、その建立の目的についてこう語る。

新潟県見附市にある專正寺は創建天正10年(1582年)と400年以上の歴史を持つ。寛永17年(1640年)に現在の地に移って以来、地域の中心として人々に親しまれてきた。

專正寺のある地域は農村地帯で、これまであまり移動する人はいなかったため、住民同士、地域とのつながりも何百年にもわたって維持されてきた。

しかし、高度成長期以降、そうした環境にも変化が訪れた。これまで農家の後継者と目されていた子供たちは進学や就職で都会に移り住むように

なった。東京など、時間にすれば新幹線でわずか2時間という距離ではあるが、生活の拠点が移ることの影響は大きい。その人の代では故郷との関係が維持されたとしても、その次の代へと世代交代が進むと縁は薄くなり、いつしか途切れてしまうといったこともある。

こうした動きは、何も地方に限った事ではない。都市部でも、例えば多摩ニュータウンなど、開発された当時はそこに住むことがステータスとされてきたような町でも、子供が巣立ち、年老いた親だけが取り残されるといった現状がある。若い世代は常に、生まれ育った町を見捨てて、新たな土地を求めて移動していく。そのように人々が移動を繰り返していくのであれば、どこかに「帰れる場所」が必ず求められるようになるというわけだ。

「『憶昔廟』には、自分の命のルーツに出会える場所という意味がある。ルーツというのは多くの命や願い、すなわち『心』を受け継いで今の自分があって、それをまた後の世代に伝えていくということ。ただ、言葉でだけ『心』と言っても目には見えないものなので、最期の場所として、形の上でも拠点となるものが必要だと考えた。

どのようなことがあっても帰って来られる場所、たとえそこに自分の名前のお墓はないにしても、『そ



こに自分の親も、その前の世代の人々もいるのだ』
と感ぜられる場所だ」

つまり、廣橋住職にとっての「憶昔廟」は遺骨を納める場所ではなく、遺骨をきっかけに、薄れかけた縁を復活させるための手段である。そのため、廣橋住職は「憶昔廟」について語るとき「永代供養墓」という言葉は用いない。

「このような施設は一般的に永代供養墓という名称が付けられていて、結果的にはその通りなのかもしれない。しかし永代供養墓と言ってしまうと、遺骨を預けた時点で、『自分の手を離れたからもう関係は無い』と思われる恐れがある。

子供がいない、または都会へ出てしまってお墓を受け継いでくれる人がいないとか、生涯独り身でいるとか、人々のライフスタイルも変化している中

で、受け皿は必要である。最終的には永代にわたって、お寺が考えていかなければならないだろう。だが、それまでは、故人と関わりのある人がいる限り、お寺へ足を運んでもらったり、お寺からお参りに寄らせてもらったりという関係は保っていききたい」

従って、「憶昔廟」の使用資格については、廣橋住職は「申し込む以前の宗教や宗派にはこだわらないが、お寺との関係では御門徒さんになっていただくと考えている」という。

申し込んだ後でも宗教、宗派は不問といった永代供養墓も多く見られるが、廣橋住職の考える「憶昔廟」は「布教のための手がかりの一つ」である。「何らかの形で、浄土真宗の教えと出会っていただくことが大切である」ということを念頭においているため、従来の門徒と同等の立場となる。

|||| お寺の活動を通じて新しい形の縁を創る ||||

「憶昔廟」の周知活動については、宣伝広告を行う予定はない。

これまで、専正寺ではお寺の行事や地域活動など、さまざまな活動を行ってきたが、こうした取り組みを通じて、口コミなどで時間をかけて認知度を高めたいという考えだ。

例えば、廣橋住職が住職に就任して以来、約50年にわたって続けてきた活動には、毎月、第2土曜日の7時から行っている「子ども会」がある。

この会は、門徒だけでなく地域の人たち皆を対象にしているものだ。近年では少子化も進んでおり、隣の町内を入れても小学生はたったの22名しかいないが、そのうちの10名ほどが毎回集まっている。

お勤めの後、お寺で遊ぶというものだが、大きな

憶昔廟の内部(左)と外観(右)。境内の中央に位置する





七夕には子供たちの作った団扇が山門を飾る

子供たちが思い思いのメッセージを書き込んだ巨大手作り鯉幟

鯉幟を作ったり、七夕飾りのように団扇に絵を描いて山門に下げたりと節目節目の季節行事も大切にしている。また、毎年8月の20日ころには「夏休み子ども会」も開いているが、ここには地域のほとんどの子供たちが集まるといふ。

「以前、子ども会に来ていた子供たちというのは、町で会っても挨拶するし、都会に行ってもお寺を覚えていてくれる。もう孫がいる年代になっている人もいるわけだが、そういうのも嬉しい。

また、子供のころにお寺に来た経験のある人というのは、お寺に違和感がない。そういう意味では、小さなころから関わりがあれば人間関係もスムーズになり、心の通いが生まれる」

また、毎年、前年の8月からその年の8月までに亡くなった故人の遺族が本堂に集まって開く新盆法要には、2日間で200人近い人々が集まるといふ。

法要に集まった人々には、ひとりひとりに専正寺の手作りのお齋が振舞われる。油揚げやこんにゃく、たけのこやぜんまい、煮しめなどと品数も多い。「法要でお寺に来て、お齋を食べて『ああ、これだこれだ』と懐かしがってくれる」、故郷の味だ。

専正寺では、この新盆法要に限らずお寺の行事

の際にはお齋を手作りで作っている。今は故郷を離れて生活している人も、子供のころに食べた専正寺のお齋の味というのが記憶に残っている。このような集まりで境内の中央にある「憶昔廟」を目にすれば、集まった人々は、自らの将来を考えるかもしれないし、終の棲家として、懐かしいお寺に帰りたいたいと思うかもしれない。

今後はこのような取り組みだけでなく、「憶昔廟」に生前申し込みした人たちを対象に、自分の人生を見つめ直したり、将来のことを考えたりするようなセミナーなども計画中だ。「浄土真宗の教えとの出会いが死をきっかけにして始まるというのでは、これまでと同じである。しかし、実際はそれ以前に考えておくべきことである。正統な考え方や関係を築いていくことが大切である」というわけだ。

時代とともに消えていった絆が、「憶昔廟」をきっかけに「もう一度、新しい形で生まれ変わるかもしれない」と、廣橋住職は語っている。

本堂の様子



地域の人々に支えられてきた、歴史を感じさせるたたずまいの本堂外観



敬老の日にはおじいちゃん、おばあちゃんに日ごろの感謝の気持ちを表彰状にして贈る





第35世松永慈弘住職

実の親に手を
合わせる
気持ちで
日々、供養をする

日蓮宗
本覚山実相寺

埼玉県川口市にある日蓮宗本覚山実相寺は今からおよそ650年前、室町時代も初期の南北朝時代に、経王院日通上人によって開かれた。江戸時代には、鷹狩りの途中、急な病に倒れた三代目将軍徳川家光を、当時法力無双と称せられていた第16世日蓮上人が祈祷によって平癒させたという、歴史にも残る名刹だ。祈祷道場としても名高く、江戸城大奥の侍女たちの髪で造立された「植髪鬼子母神」を祈祷本尊として祀っている。

この実相寺に第35世松永慈弘住職が永代供養墓「宝珠の碑」を建立したのは平成3年のこと。当時、檀家制度が揺らぎ始めていると感じた松永住職は、既存の制度だけでは包括しきれない人々に対して、何とかして縁を結べないかと考えていたという。



宝珠の碑

そんな折、松永住職を子供のころから可愛がってくれていた夫婦から、「私たちには子供がいない。ついては後のことを実相寺さんをお願いしたいのだけれども、何か良い方法はありませんか」という相談を受けた。

「かつては後継者がいなかったとしても、親戚のお墓、自分の兄弟のお墓に入れてもらうということは普通のことだったのだが、現在では直系は入れるけれど傍系は入れないという雰囲気になっている」。このような風潮の中で悩んでいる人もいるということから、「宝珠の碑」を建立した。

「宝珠の碑」のデザインは釈迦仏が多くの説法をし、法華経を説いた場所ともいわれる霊鷲山がモチーフになっている。

「正面において、ご先祖様との再会を果たして欲しい」という願いから、線香受けはあえて1つだけ、碑の真正面に置かれている。一方、花立ては左右に10個ずつ設置され、いつもたくさんの花で飾られている。碑の背面には大きな石の板が屏風のように立っており、そこに「宝珠の碑」に眠る人々の名が刻まれている。この墓碑の一番上には、「宝珠の碑」建立のきっかけとなった先述の夫婦の名



山門から望む本堂

が記されている。

「宝珠の碑」への申し込みに掛かる費用は15万円。この中に永代供養料、永代使用料、永代管理料、墓誌刻銘料が含まれる。年会費や管理料もなく、これだけの費用で永代にわたっての供養を実相寺が行ってくれるというわけだ。永代供養墓の維持管理に掛かるコストや寺院運営という面から考えると、かなり低く設定されているようにも思えるが、松永住職は、「これで良い」と断言する。「世の中には困っている人が多いから」と、松永住職にとって永代供養墓は、あくまでも「人助けの一環」という位置付けだ。

従って、「きちんと供養をする」という条件をクリアしていれば、誰でも「宝珠の碑」に入れるということになっている。

松永住職のいう「きちんと供養をする」というのは、「葬儀をきちんとする」ということと、「戒名がある」という2点だ。

「永代供養墓に入った後の供養についてはずっと供養をするお寺に責任がある。だからこそ、お寺が一生懸命にお経を読まなければならないし、伝統的な方法にのっとって供養をしなければならない」と松永住職は言う。だが、そのためにも納骨前

の供養がきちんとされている必要がある。

もちろん、万一「火葬はしたけれど葬儀は行ってない」という場合であっても、それで困っている人を拒絶するというわけではない。「宝珠の碑」に申し込む際にその旨を伝えれば、実相寺で改めて葬儀を行うことも、戒名を授かることも可能である。また、戒名についてはすでに授かっていれば、他の宗派のものでも構わないという。

納骨後の実際の供養については、松永住職が毎日の供養を行うだけでなく、毎年8月17日のお会式では、10名ほどの僧侶を迎え永代供養墓に眠るすべての人の戒名を読み上げて供養する「施餓鬼大法要」も行っている。

「永代供養墓に眠るすべての人に対して、実の親に対するような気持ちで日々、供養をしている」という、そうした思いも伝わるのだろう。「宝珠の碑」は現在、生前予約も含めてすでに3分の1ほどの申し込みで埋まっている。

これらの人々の中には「お檀家さんだったけれど、後継者がいないので、墓地ではなくてこちらに入れて欲しいという方」もいるが、多くは「それまで全く縁のなかった方」で、まさに永代供養墓が縁となって実相寺を訪れた人々である。



霊鷲山をイメージしたデザイン



最近の鬼たちは豆に当たらないように隠れてしまうという



実相キッズの模様。小さな子供もきちんと正座する

|||| お寺の行事との緩やかなつながり ||||

「宝珠の碑」以外にも、松永住職はお寺を舞台にさまざまな活動に取り組んでいる。

例えば、その月にあった出来事を皆で話し合って元気になろうという「信行会」、集まった人々の運気を向上させる「盛運祈願会」、そして近隣の小学生を対象としたこども会「実相キッズ」など毎月の行事のほか、地域の行事として定着した「万灯行列」、夏休みに子供たちがお寺の本堂に泊まる「サマーステイ イン 実相寺」といった年間行事などだ。さらに、空いた時間を見つけては個別の悩み相談にも応じている。

こうした取り組みはどれも、「お坊さんであるから

サマーステイ イン 実相寺



|||| 「自分で生きていけなければ駄目だよ」 |||| というメッセージを子供たちに

こうした悩み相談では、「病気を治したい」とか、「お付き合いしている人と別れたい」というように、松永住職はどんな悩みでも受け付けている。中にはまるで悩む必要のないことで苦しんでいる人もいる。そうした人たちが抱えている悩みを客観的に見て、「問題ありませんよ」と言ってあげることも大切だという。

最近の傾向としては、インターネットで実相寺のことを知り、メールで悩みを送ってくる人も増えている。こうした現状について、松永住職は「無縁社会

施餓鬼法要の様子。毎年、宝珠の碑に眠る故人たちの供養も営まれる





実相寺名物の万灯行列。子供たちも参加して盛大に行われる

ということも取り沙汰されているが、おそらく相談する相手がいないのだろう。だからメールで相談ということになるのではないだろうか」と語る。

また、相談を受けていて松永住職が感じているのが、「我々ぐらいの年代でもそうだが、皆、人生を安易に考えすぎている」ということ。

このことについては印象的な出来事があるという。

以前、「実相キッズ」での子供たちに、「大きくなったら何になりたいか」と尋ねたとき、ひとりの子供の答えが「フリーターになる」というものだった。この答えを聞いて、松永住職は「病気になったらどうするのか、国が何とかしてくれるというけれど、貯金だって価値がなくなってしまうかもしれない」と、真剣に話をしたという。

フリーターという生き方もひとつ選択肢であり、否定するものではない。しかし、「とりあえずは生活できる」と安易に考えているのであれば、松永住職は例え相手が小学生であっても本気で応じる。

「子供に限らずこの辺の危機感がないように思う。どうにかなると思っているのかもしれないが、どうにもならないから、毎年3万3千人の人が自ら命を絶っている。

脅かすわけではないが、どうなるか分からない時代である。だからこそ子供のころからこうした考

えに触れておくことで、大きくなって、自分で幸せな人生を切り拓いてくれるようになるのではないだろうか。自分で生きていけなければ駄目だよというメッセージである」

この思いは実相キッズで毎回、まず初めに皆で唱和する「人には優しく、けじめを付ける、やれば出来る」という3つの言葉にも表れている。「自分の人生に、しっかりした基盤を作ってもらいたい」という、松永住職から子供たちへの願いだ。

この「実相キッズ」には、友達が友達を呼んで年々参加者も増加している。そんな中、松永住職は新たにキッズスタッフ制を導入した。中学生に小さな子供たちの「お世話係を任せる」という制度で、お寺も助かるし、スタッフたちにとっても自分の勉強になる。また、この制度によって、それまでは小学校を卒業すると同時に、お寺から遠ざかっていた中学生、高校生も、再びお寺に戻って来るようになったという。

今後の目標という点では、松永住職は「人助けを出来る人材を育て、実相寺で培ったノウハウを広げて行きたい」という。「初めはアパートくらいの大きさかもしれないが別院が出来て、そこからまた子ども会などの取り組みが広がっていけば良いのではないか」と語っている。

広々とした境内は子供たちの格好の遊び場になる





みんなのお



人の集まるお寺づくり

① 日蓮宗 松栄山 了法寺

② 臨済宗 建長寺派 福智山 能満寺



東京・八王子の了法寺は、山門に立てた境内看板をきっかけに、世界各国から参拝者が訪れるお寺へと変わった。弁才天をモチーフにした「とろ弁天」をはじめ、鬼子母神をイメージした「まま」など了法寺に祀られる神仏のキャラクターが描かれたこの看板は、設置と同時にインターネット上で話題となり、「萌え看板」という愛称でマスコミや人気少年漫画にも取り上げられることになった。結果、了法寺は連日、若者を中心に大勢の人で賑わう寺となり、イベントでは2日間で約2,000人も集まるようになった。だが、中里日孝住職はこうしたブームそのものを布教の機会として、冷静に見る。中里住職が読むお経を携帯電話向けに配信したりと、新しい布教の形を模索している。



話題となった「萌え看板」

「萌え看板」で、若者の集まるお寺に大変貌を遂げる

日蓮宗 松栄山了法寺

Ⅲ 了法寺「萌え看板」の概要 Ⅲ

「萌え看板」を立てた経緯

日蓮宗松栄山了法寺はJR西八王子駅から徒歩10分、甲州街道沿いに位置する、500年以上の歴史を有する古刹だ。境内には樹齢260年を超える百日紅があり、八王子七福神の一つである新護弁才天や、鬼子母神なども祀られている。檀家数は約300軒と一般的な寺院であったが、平成21年5月に中里日孝住職が山門に看板を立てたことから状況は一変した。

名物となった「萌え看板」について、中里住職は「当初は境内看板を造りたいと考えた」と説明する。その狙いには、檀家に向けたものと檀家以外に向けたものと、2つの目的があった。

「一番の目的は、檀家の子供や孫たちに、自分た



中里日孝住職

ちの菩提寺にどのような神様が祀られているかを知ってもらい、『いつも明るく、皆が健康でいられるように神様が皆を守ってくれている』ということ、分かりやすく伝えたい』という思い。もう一つは、「八王子に住んでいる人でも、ここにお寺があるということを知らない人が多いので、そういった人々にも了法寺のことを知って欲しい」という思いである。

そこで、「このような目的で、お寺の看板が欲しい」ということを、中里住職は広告・企画・イベント会社(株)八福に勤める、友人であり了法寺の檀家でもある三井一仁氏に相談した。相談を受けた三井氏は、「皆に見てもらえる看板を立てないと意味がない」ということ、また「お寺の縁起と、祀られている神様の紹介を1枚の看板で伝えるとなると、情報量が非常に多くなる」ことから、看板作成には「漫画を描ける人が適任である」と判断。声優、歌手、イラストレーターと幅広い分野で活躍する、とろ美氏に依頼した。

「もともと絵画全般は好きだったが、『こういう人に描いてもらう』と、とろ美さんの作品を初めて見たときは、さすがに驚いた」と、中里住職はそのときの様子を次のように語る。

「非常にクオリティーの高いものであったが、やはり絵がアニメやゲームのキャラクターのような、いわゆる“アキバ系”と呼ばれるものであり、これをお寺の看板として使っても良いものかどうか、葛藤した。これで神様が描けるのか、言葉を失った」

しかし、啞然としながらも絵を見ていると、これまでに感じたことがないような、「わくわくするような、楽しくなるような気持ち」が湧いた」と中里住職は言う。

「これまで、仏様のことを伝えるということは素晴らしいことであると思いつつも、実際の布教活動に関しては、厳しい苦行を伴うものだと考えていた。それが、イラストを見たときに、『遊び心を持ってして

も、布教はできるかもしれない』ということを感じた」
しかも、調べてみると江戸時代には各地のお寺で次々と新しい取り組みが行われていたということも分かった。ただ、中には神仏をイラストで表す事を不謹慎と感じる人もいるかも知れない。そこで、「1人でも反対する人がいれば即刻中止にする」という覚悟で、了法寺の檀家総代、役員、関与者たちに絵を見せて「こういう看板を造ろうと思う」という話をしたところ、皆、即座に賛成してくれた。

こうして、了法寺の「萌え看板」が誕生することとなり、以後、中里住職の思いを(株)八福がサポートするという形でさまざまな取り組みを実現させた。

モバイルサイトをPCに開放

了法寺が1年と経たずに「若者が集まるお寺」へと大きく変貌したことについて、「インターネットで話題になったということが一番大きかった」という中里住職だが、看板を設置した当初は、了法寺にはお寺のホームページすらなかった。

看板を立てた際に、情報量が多いので看板には了法寺で祀る神々をキャラクター化したイラストと、



QRコードで、それぞれのキャラクターの説明が書かれた携帯サイトが閲覧できる

その横にはQRコードを記し、コードを携帯で読み取ることでそれぞれの神について解説する携帯サイトを閲覧できるようにしたことが効を奏した。

「看板のQRコードを読み取って、携帯電話で神様やお寺の説明を読めるようになっているのだが、そのページを携帯電話専用にはしなかった。通常、携帯サイトでは、携帯でしか閲覧できないような細工をするものだが、了法寺の場合、それをパソコンでも簡単にアクセスできるように開放した。そこで、パソコンから入った人にも『これは何だ』と興味を持ってもらい、『お寺がこんなことをやっている』と口コミで広がっていった」と、看板の制作を行った(株)八福の室井篤志取締役は言う。

こうして了法寺の看板は設置後すぐに「萌え看板」というあだ名も付いた。それぞれのキャラクターについても、インターネット上で「とろ弁天が好き」という具合に、ファン同士が自然に話題にしてくれる。また男性だけでなく、宇賀神がモデルとなった「ウガちゃんがかわいい」というように、女性ファンも増えていった。

|||| 「萌え看板」から生まれた新たな布教活動 ||||

参拝者2,000人が集まった「メイドカフェ」

看板の設置から1年間、中里住職は人々の期待に応えるような形で、さまざまな取り組みを進めてき

た。ただ、その根本には常に「布教」がある。

具体的な取り組みとしては、昨年11月に開かれた「八王子いちよう祭り」に合わせて開いたメイドカフェがある。

これまではお祭りに来て了法寺の前を通る人はいても「ここにお寺がある」と気付いてくれる人はあまりいなかった。しかし、看板が話題となったこともあり、また「若い人たちが遠方から訪れたときに、お寺に楽しむものがないというのも残念なことだろう」と、中里住職は急遽、メイドカフェを開くことにした。昔のお寺の参道には茶屋があった。その現代風のものという発想であるが、「まず一度、本堂にお参りをしてからカフェに行く」ということを条件付けた。

「お参りに来てくださいという布教は前々から望んでいた事だが、お寺は檀家以外入ってはいけなところだと考えて皆素通りしてしまう。

本来、お寺は門を開いて、いつでもどうぞという場所である。従って、いろんな人がお参りに来るのは良いことだ。そこで手を合わせていただくということが布教である」



花祭りの模様。若者を中心に大勢の人が集まった

寺務所の前には、参拝者たちが自由に書き込めるノートも用意。プロの漫画家も訪れておりイラスト入りでメッセージを残している

このメイドカフェには、公募で約10名のメイドが集まり、了法寺には2日間で2,000人を越える人々が参拝に訪れた。その模様は海外のメディアでも放送され、了法寺の名前を世界に広めることとなった。

グッズ販売を通じた布教活動

また、了法寺では「萌え看板」に描かれたキャラクターのグッズも販売している。

これは、了法寺を訪れた若者たちの、「何か記念になる物が欲しい」という声から作られたものだ。

四誓願とイラストを描いたマグカップやQRコードを携帯電話で読み取ると、中里住職の読む「妙法蓮華経如来寿量品第十六(自我偈)」をダウンロード出来るQTカードなど、グッズひとつひとつが布教につながっている。インターネットでの販売は行っておらず、基本的にはお寺を訪れなければ入手できないというように、お寺との接点を増やすきっかけにもなっている。

さらに、中里住職は「萌え看板」から始まった一連の試みを地域活性化につなげたいと、八王子七福神を祀る他の寺院に対しても協力を呼びかけている。当然、それぞれの寺院で考え方も異なるし、何よりもロケーションが違うため、すべての寺院で看板が効果を発揮するとは限らない。ただ、「看板が立てられなくてもマスコットは作っていただけかな」というように、それぞれの寺院に合った手法もあるはずで、こうした中里住職の提案に興味を持つ寺院も多い。今後、地域全体としての取り組みを、具体的にどう進めていくかということが課題だという。



悩み相談で心の 危機に陥った人を救う

臨済宗 建長寺派
福智山 能満寺

神奈川県伊勢原市にある臨済宗能満寺では、地域のミニコミ誌に自殺防止の記事を連載するなど、悩み相談という面でお寺を舞台に積極的に活動を展開している。自衛隊衛生学校でカウンセリング技術を学び、お寺を拠点に「危機に陥った人を救うコミュニケーションスキルを身につける」活動をしている。また、一連の活動を通じて、NPO法人MR(メンタルレスキュー)協会の設立に関わった。

自衛隊衛生学校で学んだ技術で悩み相談

松本隆行住職が能満寺の住職に就任したのは平成11年のこと。もともとは数学の教員になる夢を抱いて大学に入ったが、4年生の時に兄が「お寺を継がない」と宣言したため、大学卒業後に急遽、臨



秋の恒例イベント、「紅葉ライトアップ演奏会」の様。カウンセリング以外にも、地域の人々に向けてさまざまなイベントを開催している



済宗建長寺派修業専門道場に入って修行を積んだ後、大本山建長寺で勤務もするようになる。

カウンセリングに取り組むようになったことについて、松本住職は建長寺で勤務していたころに、「週2、3件は相談の電話がかかってきたことがきっかけになっている」という。

当時、松本住職が受けていた相談の内容は「働きに行く気になれない」といったものから、「死にたい」というものまで、どれも切実なものであった。日々寄せられてくる悩みに対しては、僧侶という立場で「こうしなければならない」と答えることは出来る。だが、いつしか「悩みに答えるのではなく、傾聴する技術をもっと磨いた方が良いのではないか」と考えるようになった。

そんなとき、自らも幹部自衛官でありながら、自衛隊内のカウンセリングに関わることを一手に引き受けているという下園壮太氏の著書を読んだ松本住職は、すぐに下園氏を建長寺に招き、研修会を開催した。

だが、研修会だけでは学びきれものではない。より深く学びたいということから、松本住職は、陸上



松本隆行住職

「親子で聞きたい朗読会」。
朗読の後は皆で精進カレー
を食べる



自衛隊衛生学校の教育に協力する形で同校に通い、下園氏の下でカウンセリングについて学んだという。

|||| ミニコミ誌での連載を通じ、悩み相談をする |||

「実際の相談は電話が多いが、相談したくてもどこに相談して良いのか分からないと感じている人も多いだろう。だからこそ、『カウンセリングルームはここですよ』ということを常に知らせておかなければならない」

このような考えから、松本住職は地域のミニコミ誌に「悩みがある人はお寺に来て欲しい」という広告とともに、「自殺した人は、死にたくて死んだわけではない」といった内容の学習記事を1年間連載、「お寺で話を聴く」というメッセージを発信し続けた。そうすることで、電話での相談や、実際にお寺を訪れて悩みを話していく人も現れるようになった。

相談を受ける際のお寺の役割は、問題を解決することではなく、危険な症状がないかを見極め、受診につなげてあげること。

「昔なら、ご先祖様の前で訴えたりしてすんでいたものが、価値観の多様化によって、『それは違う』という意見の方が多くなる。自分のことが分かってもらえない状況になると、その状況が、その人からエネルギーを奪うことになる。では、エネルギーを与えるためにはどうすれば良いのかというと、『そうだよね』とその人を理解してあげることが必要になる」

|||| NPO法人の設立 |||

松本住職はこうした活動によって、平成20年にはNPO法人MR協会の立ち上げにも関わることとなった。

この協会は衛生学校で学んだ仲間と始めたもので、「死にたい」という衝動や、災害、犯罪被害などの惨事など、「危機に陥った人を救うコミュニケーションスキルを身につける」活動を行っている。「絶対に引越さないということで、協会の所在地は能満寺。このようなお寺の使い方もあるのだろう」と松本住職は笑う。

惨事ストレスがその活動の対象となっているが、葬儀もこれに該当する。「お通夜や葬儀で集まって故人の情報を交換し合う」ことで、悲しみを客観的に整理して対応できるようになる。

「亡くなるということが一つの事件であるとする、その状況についていろんな人と話し合うことで癒される。例えば『何かをしてあげなければならなかったのに、してあげられなかった』という思いを抱いている人は、『そんなこと、故人は思っていなかったよ』と聞くことで気持ちが楽になる。これが、お通夜や葬儀の持つ大切な役割でもある」

こう考えると、「一見お寺とは縁のなさそう」に見える協会の活動も、実はお寺が一生懸命やらなければならないことに共通点が多い。グリーンケアに通じるものでもある。

こうした取り組みの最終目標は、「誰でも来られる、誰でも手伝える、誰が来ても『あなたが来てくれて良かった』という場所を作ること」。「お寺や僧侶が置かれている立場では、壁を取り払って活動をするということは難しいことかもしれない。しかし、小さな縁から、いろいろな人を巻き込んだ活動ができる可能性はある」と語っている。

お問合せ

お寺環境整備事業

みんてら事業部 TEL 048-254-2222

発行元

有限会社 川本商店

本社 〒107-0052 東京都港区赤坂2-21-1

川口営業所 〒333-0844 埼玉県川口市上青木1-7-4
TEL 048-254-2222 FAX 048-254-0888

WebSite <http://www.kanze.co.jp>

E-mail kawamoto@kanze.co.jp

『地域のためのお寺』とは、生活者のお一人おひとりの異なる思いに共感や有縁の出会いが生まれることです。永代供養墓や、お寺の資源を活かした施設づくりは、人々の集まる、魅力のあるお寺を『未来への序章』として構築することです。

ご住職の、素の自分を自然にふるまえる「対話の場」から始まり、新たな出会いとなり、ふれあいが生まれます。

お寺の復権は経済的自立とともに、新たなステージの時代に向かっていきます。

人々も『無縁から有縁』を求めるように、お寺にもその環境資源を活かした「未来への序章」を発信する良い時期だと思います。

個性のある発信を専門のスペシャリストがお手伝いさせていただきます。

次号へつづく…

無  有

かわもと

みんてら事業部

 **川本商店**

創業100年 かわもとグループ
代表取締役 川本恭央